令和5年度

小　市　こ　ど　も　園　自　己　評　価　票

記入者：佐々木　徹英

保育方針	○豊かな自然に恵まれた環境を活かし、四季を通して遊ぶ中で知性と感性を育む保育を行います ○仏様に手を合わせる中で、自らを省みること、自分と自分を支えてくれる存在を大切にすることの尊さを伝え、思いやりと感謝の心を育む保育を行います ○子ども達の「やってみよう！」の気持ち、好奇心と自主性を尊重し、適切な援助を行うことで「できた！」につなげる保育を行います ○子ども同士の関わり合いが深まるよう、言葉による援助や環境構成に配慮した保育を行います	保育目標	○身の回りにある「いのちあるものの存在」に気付き、それを等しく大切にする子ども ○「ありがとう」と「ごめんなさい」の気持ちを素直に伝え、友だちと共に成長し合う子ども ○何事にも意欲的に取り組み、様々な挑戦を繰り返す中で自信を育み、自立心を備える子ども ○お話をよく聞き、思いを伝え合う中でお互いを認め合い、一人一人が持つ自由な創造性を集団の中で更に深める子ども

評価項目	評価内容	前期：4月～9月		後期：10月～3月	
		評価	取り組み状況	評価	取り組み状況
保育の内容について	・保育課程・保育目標・保育指導計画等は、定期的に評価見直しを行っている。	A	認定こども園への移行に合わせ見直しを行った。	A	次年度に向けて保育理念、保育方針、保育目標を全面リニューアルした。
	・保育目標は全職員で検討することで共通理解を図っている。	A	職員会の都度、園の方針を伝えるよう努めた。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・指導計画は、子どもの実態を踏まえ発達過程に応じ作成している。	A	前年度の子どもの様子を踏まえ、見直しを実施。	A	同上
	・子どもへの援助・支援は,保育指針に基づき適切に行っている。	A	保育指針に基づき行った。また、作業療法士の定期的な訪問を取り入れ、いわゆる気になる子に対して適切な関わり方ができるよう、助言を受けた。	A	同上
	・環境構成は、保育や子どもの発達過程を常に意識し工夫している。	A	昨年度より継続して0・1歳児の保育環境改善のための園内研修を実施。また、2歳児クラスでもコーナー保育等ができるよう改修工事を実施し保育環境改善に取り組んだ。	A	同上
	・行事はねらいを明確にし、計画や実施に十分生かしている。	A	3歳未満児で推進している子ども主体の保育推進のため、3歳未満児の運動会は練習不要なものに変更した。	A	同上
	・障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や対応に配慮している。	A	指導計画の中で障害児に対する保育は個別の項目として検討・配慮している。また、作業療法士等に定期的に発達相談を行い、適切な関り方となるよう配慮した。	A	同上
	・小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて保育の内容や方法など、保護者に伝えている。	A	松ヶ丘小学校様と連携しアプローチカリキュラムの内容を見直した。	A	前期に見直した内容に基づき保育を行った。
健康・食育及び安全について	・子どもの健康管理は一人一人の健康状態に応じ対応している。	A	新型コロナウィルス感染症の5類移行に伴い、『新型コロナウィルス感染症 対策ガイドライン』を『保健衛生に関するガイドライン』に改め、コロナ禍で得た知見も活かし健康管理に務めた。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・緊急時（事故、感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制を整備している。	A	事故防止マニュアルを元に園内研修を実施した。	A	同上
	・子どもの安全確保のために防災に対する計画を立て定期的に訓練を実施している。	A	年度当初、消防署に届け出た計画に基づき避難訓練を実施。	A	同上
	・健康や安全な生活に必要な習慣が身に付くための援助と共に家庭への情報提供を行っている。	A	園だよりや個別の相談を通じて情報提供を行った。	A	同上
	・楽しく食事ができるような配慮や環境の工夫をしている。	A	クラスごと、3歳以上児はグループ分けも定期的に行い、楽しい食事環境の構築に配慮した。	A	同上
	・食物アレルギーの対応や誤食防止に配慮している。	A	入所時にアレルギーに関する聞き取りを行い、調理員との連携も行い適切に対応した。	A	同上
子育て支援について	・保護者からの子育てに対する相談や意見などには適切な対応・援助を行っている。	A	にこにこ園訪問や作業療法士から受けた助言も取り入れ、就学相談が必要な子については保護者に適宜打診した。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・地域の関わりを大切にし、おひさま広場、育児相談、一時預かりなど積極的に取り組んでいる。	A	毎週木曜日に園開放、または園庭開放を実施。昨年度以上に積極的に取り組めた。	A	前期に引き続き可能な限り実施し、年間を通して25回実施できた。
職員の資質向上について	・計画的に園内研修を行っている。	A	参集型の研修会への参加やオンラインを活用した研修を積極的に行った。また、今年度は危機管理に関する園内研修を職員全員参加で行った。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・諸研修の成果を保育に生かし、子どもの育ちに反映している。	A	例年の研修に加え、保育環境に関するコーディーネーターを招いて3歳未満児の各クラス単にに園内研修を行った。	A	同上
	・自己評価・第三者評価を定期的に行ない保育の改善に努めている。	B	第三者評価は未実施。職員の自己評価は様式を見直して対応した。	B	同上
運営・管理について	・保育所の課題について共通理解を深め、協力して改善に努めている。	A	職員の作業負担軽減を目的にICTシステム刷新に取り組んだ。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。
	・職員会を適切かつ効率的に進めている。	A	月1回程度職員会を実施。職員の負担軽減を目的に、夕方ではなく昼間（13：30～14：30）に実施。事務連絡等については園内コミュニケーションツールで対応した。	A	同上
	・守秘義務、法令の遵守をし、個人情報の取り扱い及び苦情解決など、適正かつ適切に行っている。	A	第三者委員の設置とともに苦情対応窓口を設置し適切に行った。	A	同上
	・施設内外・設備・遊具などの安全点検を計画的に行っている。	A	環境点検表に基づき、毎月安全点検を行った。	A	同上

評価	目安	前期総合評価	今後の課題と改善策	総合評価	評価理由
A: 十分に達成されている	90～100%	A	・3歳未満児クラスは昨年度来大幅に保育環境を変えているので、適宜外部講師の手配など行って過度な負担が掛からないようにする。 ・ICTシステムの刷新により職員または保護者に混乱が生じないよう丁寧に対応していく。	A	・前期同様安定した運営ができた。 ・保育環境の改善に関する園内研修の実施と保育室の改修が実施できた。
B: ほぼ達成されている	70～90%未満				
C: 取り組んでいるが不十分	50～70%未満				
D: 取り組みが不十分	50%未満				